



弥富北中学校では、校訓「至誠」のもと、知・徳・体の調和がとれた人間性豊かで実践力のある生徒の育成をめざし、さまざまな教育活動を行っています。その活動の一部を紹介します。

特別活動と連携した健康教育



「弥富市健康都市宣言」に関する取り組みとして、体育の授業では「弥北7分トレーニング」と題し、基礎体力づくりのためのトレーニングを行っています。また、「月別保健目標の設定や保健室前の掲示」（保健委員会）、「食を通じた健康増進の啓発活動」（給食委員会）など、特別活動と連携した健康教育を推進しています。

地域と連携したキャリア教育



「お帰り弥北の輝く先輩」と題し、各分野の第一線で活躍されている本校出身の方をお招きした講演会を毎年行っています。母校の先輩が活躍されている姿を実際に見聞きすることで、働くことの素晴らしさや将来の生き方について考える機会としています。地域の人材を活用し、地域と連携したキャリア教育を推進しています。

自ら考え行動する自問清掃



清掃の時間を「自問清掃」と名付け活動しています。「人に言われてやる」のではなく、自ら気づき、考え、具体的に行動する気持ちや姿勢を育てていくことを目標にしています。自問清掃によって「根気玉」（進んで清掃に取り組む心）、「親切玉」（人を助けようとする心）、「発見玉」（新しいことを見つける心）という3つの玉（心）を磨いていきます。15分間、全校生徒が一斉に、無言で、黙々と掃除に取り組む姿は圧巻です。

広島研修

平和のために

十四山中学校 安井 鈴蘭

【平和記念資料館で心に残った展示物 -「三輪車・鉄かぶと」-】

1945年8月6日、鏡谷伸一ちゃん(当時3歳11か月)は、その三輪車で遊んでいる時に被爆したそうです。全身に大けがや大やけどを負った伸一ちゃんは「水、水…」と叫びながら、その晩に亡くなりました。父親は、亡くなってからも遊べるようにと、伸一ちゃんとともに三輪車も庭に埋めました。被爆から40年後、父親は伸一ちゃんの遺骨を墓所に移すことにしました。土を掘りおこした時、鉄かぶとの中に伸一ちゃんの丸い頭の骨が残っていたのだそうです。

自宅前で遊んでいた時に命を落とした伸一ちゃんのことを知り、改めて“原爆”というものの恐ろしさを感じました。戦争が奪う平和や幸せとは何かということを知り、学ぶことができました。また、伸一ちゃんに対するお父さんの愛情も感じました。展示の最後に、戦争が終わって親子が笑顔でいる写真が展示されていました。それを見て、終戦を迎えた時の安堵感はとても大きかったのではないかと思います。

【袋町小学校】

私達が訪れた袋町小学校は、爆心地からおおよそ460メートルの位置にありました。当時は被爆者の避難場所や救護所として、そして地域住民の安否確認の場所として使われていたため、壁には人々が家族への伝言を残した跡がありました。その伝言から、人々が戦時中に生きようとする一生懸命さや自分は辛くても家族を安心させようとする優しさを感じました。

【平和について考えたこと】

2日間の広島研修を終えて、自分の知っている以上に戦争・原爆は恐ろしいと思いました。原爆ドームを見た時には、「建物がここまでになる程の威力だったんだ」と思いましたが、ガイドさんの説明を聞いているうちに、原爆ドームはただ戦争の恐ろしさを伝えているのではなく、二度と同じことを繰り返してはいけないと未来へ伝えるために残っているのではないかと考えるようになりました。

現在、戦争を体験した方は高齢になっているため、戦争のことを後世に伝えられる人が減ってきています。だからこそ、戦争について学んだ私達が未来の架け橋となってたくさんの人に学んだことを伝えていこうと思います。そして、平和のために貢献していきたいです。



平和への歩み

十四山中学校 廣辻 柑介

【小さくて大きな恐怖】

広島原爆で、核分裂したウランの量を表した展示物には、「広島に投下された原爆は約50キログラムのウラン235を含む濃縮ウランが詰められていた。そのうち核分裂したのは1キログラムに満たない」と紹介されていた。原爆の被害についてたくさん知った後にこの展示物を見つけた。こんなに小さいものがあんなにたくさんの建物や人々を無惨な姿に変えてしまうことを知り、その危険性に怖くなるとともに、何か悔しい気持ちになった。しかし、核分裂の構造を知ると、それも納得だった。分裂することで、不安定で強力なエネルギーになり、それが「連鎖」することで考えられないほどの力を発するウラン。高性能爆薬16キロトン分のエネルギーを放ち、全てを破壊した小さな物質。戦争もこれと一緒に、小さな出来事が「連鎖」して起きたのではないだろうか。

現代の科学によって生み出されたものはとても便利である。しかし、使い方によっては、このような強力な兵器になりかねない。だから正しく使っていくことが大切である。

戦争は小さな出来事の「連鎖」だから、僕らも家族や友達との小さなさかいであっていてもいねいに扱っていかなくてはならない。これを見て、そう思った。

【これからの平和について】

1945年以降も、核兵器を特にアメリカとソ連が競い合うように開発した。しかし、核実験は人体や環境に被害を与えるので、世界各地で核兵器に反対するデモが起きた。そして、核不拡散条約を始めとするたくさんの条約が採択された。2009年にはオバマ元大統領が核のない世界を訴えた。今、世界で核兵器をなくそうという考えが広まっている。世界は平和に向かって一歩ずつ歩み始めている。僕たちはどうだろうか。そんな世界のこと、僕らには関係ないと思っはならないだろうか。僕も初めはそう思っていた。しかし、広島市の平和記念資料館の資料を見た時、そんな思いは吹き飛んだ。その資料には、「絶対に戦争を繰り返してはいけない」「みんなに考えてほしい」というメッセージが込められていた。平和は他人事ではない。一人一人が考える必要があるのだ。みんなで共有してこそ初めて平和は実現する。「戦争は小さな出来事の連鎖」ということ以外にも、僕たちが身近で平和というものについて考えられる機会はたくさんある。まずはそこから始められたらと思う。平和に向けて、僕たちも一歩ずつ歩み始めていきたい。

